

Annual  
Activity  
Report  
2011



2011年度 年次報告書

「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」を目指して  
特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス

ひとつのいのちが生まれ  
いくつものいのちがつながり  
今のいのちは未来へとつながっていく  
今を生きる私たちの命は未来からの借りもの  
次世代の子どもたちの命を想い、  
「ひとりひとりにできることを始めよう」  
そんな想いからテラ・ルネッサンスの活動は始まりました。  
ひとりから始まった活動は、現在、33名の職員、15名のインターン生、  
そして、1000を超える個人・団体のご支援に支えられています。  
この支えは、アジア7000名以上、  
アフリカ3000名以上の人々への支援につながりました。  
これからも、テラ・ルネッサンスは「つながり」の輪(和)を広げ、  
設立目的に向けて、活動を続けていきます。  
ひとつひとつのつながりを紡ぐ糸のように  
日本と世界の命をつなぐ存在でありたい  
それがテラ・ルネッサンスの願いです。

## 目次



P2 | P3  
目次・テラ・ルネッサンスの想い



P4 | P5  
スタッフ相関図



P6 | P7  
活動内容



P18 | P21  
活動報告(国際協力事業：アフリカ)



P22 | P23  
私たちが働く理由(職員紹介)



P24 | P25  
皆様とのつながりの活動



P8 | P9  
テラ・ルネッサンスとは



P10 | P13  
2011年度 活動報告(日本での活動)



P14 | P17  
活動報告(国際協力事業：アジア)



P26 | P27  
メディア・イベント・講演実績



P28 | P29  
会計報告



P30 | P31  
マニフェスト

# テラ・ルネッサンス スタッフ関連図

## ご挨拶

創設者、理事 鬼丸昌也

2001年10月に、ひとりで立ち上げたテラ・ルネッサンス。それが、現在では、日本(京都・岩手)、カンボジア、ウガンダ、コンゴ(民)に、48名もの職員・インターンが活躍をしています。すべての職員・インターンは「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」という設立目的を追求するために、それぞれの能力を最大限活かし、各地で役割を果たしてくれています。また、それを支えて下さった会員・寄付者の皆さまの「設立目的や活動への共感」と「献身的な応援」があってこそ成し遂げられたものなのです。2011年度に、被災地である岩手県三陸地方での緊急支援、その後の「大槌復興刺し子プロジェクト」の運営を迅速に行えたのも、この11年間で蓄積してきた職員・インターンの経験と、会員・寄付者の皆さまの共感・応援によるものと確信しております。年次報告書を通じて、テラ・ルネッサンスに関わるすべての人が成し遂げたことを振り返り、世界平和の実現に向けて、さらなる一歩を、共に踏み出す契機としたいと願っています。



創設者/理事  
鬼丸昌也

## 日本事務局(京都)



経理/総務/  
海外支援事業担当  
吉田真衣



理事長/  
海外支援事業部長  
小川真吾



国内事業部長  
栗田佳典



技術/総務/会計担当 牧野由起子  
顧客対応/製造担当 関貴広  
プロジェクト・コーディネーター 吉野和也  
プロジェクト・マネージャー 鈴鹿達二郎

## 大槌復興刺し子プロジェクト事務所



芦沢博稔

奥村梨果

吉田百合香

金智娜

フェロー  
細見俊

栗原希

向畑智里

宗盛千枝

上田麻里衣

深田史美

瀬川結美

想本絵理



古岡 萌



和氣彩可

## カンボジア事務所



カンボジア事務所 駐在代表  
江角 泰

プロジェクト・コーディネーター  
クン・チャイ

ドライバー/アシスタント  
ブン・トゥン

会計担当  
ヨート・イェト

プロジェクト・オフィサー  
クウム・ボレン

裁縫技術指導員  
サムリット・ラウ

事務所警備員  
ホウト・ヒアト

## コンゴ事務所



コンゴ事務所 所長  
テオフィー・シチバンジ

アフリカ事業コーディネーター  
トシャ・マギー

ウガンダ事務所 所長  
(プロジェクトマネージャー)  
オテマ・ジミー

セキュリティ担当  
オチャカ・ジャコブ

セキュリティ担当  
コマケチ・チャーチル

BHN支援担当  
(給食・調理担当)  
ラウィノ・ステラ

BHN支援担当  
(給食・調理担当)  
アティム・クリスティーン

プロジェクトオフィサー  
アネナ・マーシー

心理社会支援担当  
オジャラ・サンデー

能力向上支援担当  
(洋裁訓練講師)  
アニョニ・ハリエツト

ドライバー  
オドン・ネルソン

能力向上支援担当  
(服飾デザイン訓練講師)  
アチャー・ボスコ

心理社会支援担当  
オケロ・ジャスティン

能力向上支援担当  
(木工大工訓練講師)  
オドン・ベンソン

能力向上支援担当  
(手芸訓練講師)  
アチロ・ジェーン

収入向上支援担当  
オケロ・リチャード

能力向上支援担当  
(服飾デザイン訓練講師)  
オコト・ジョセフ

## ウガンダ事務所

フェローシップ・インターンシップ(研修生) ※2012年6月 現在

# 活動地域・活動内容



**ラオス人民民主共和国** ●

- ラオス不発弾撤去活動支援プロジェクト
- 不発弾汚染地域ノンヘット郡中学校建設プロジェクト(2009年完了)



**コンゴ民主共和国** ●

- コンゴ(民) 東部における元子ども兵及び紛争被害者支援プロジェクト



**ウガンダ共和国** ●

- ウガンダ北部における元子ども兵社復帰支援プロジェクト
- 不法小型武器問題の啓発プロジェクト



**カンボジア王国** ●

- 地雷埋設地域村落開発プロジェクト
- 地雷埋設地域小学校建設プロジェクト
- クメール伝統音楽復興&継承プロジェクト
- 地雷回避教育プロジェクト
- 地雷撤去支援プロジェクト



**日本**

- 啓発活動(講演、ワークショップ、スタディーツアー、パネル展示など)
- 政策提言(武器貿易条約締結に向けたキャンペーン及び政策提言活動など)
- 東日本大震災復興支援活動(とつな基金/大槌復興刺し子プロジェクト)



## テラ・ルネッサンスが取り組む課題



### 地雷

世界に6000万~7000万個もの地雷が現在も残されており、15,000人~20,000人が犠牲になっています。



### 小型武器

年間50万人が小型武器の犠牲となり、その約7割が女性と子どもたちです。また、子ども兵が増える原因の一つにもなっています。



### 子ども兵

18歳未満の子ども兵士が世界に最低でも25万人(19ヶ国)存在するとされています。その内の8ヶ国がアフリカに集中しています。

# テラ・ルネッサンスとは

テラ・ルネッサンスのすべての活動は、設立目的(ヴィジョン)を追究するために行われます。ヴィジョンを達成するために、責任を持って果たさなければならない任務が使命(ミッション)です。そして、すべての活動の指針となるのが、活動理念です。

団体概要	
正式名称	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
設立年	2001年(法人格取得2005年)
活動対象国	カンボジア王国、ラオス人民民主共和国、ウガンダ共和国、コンゴ民主共和国、日本
理事長	小川真吾
海外・国内事務所	カンボジア事務所(カンボジア王国バタンバン州) ウガンダ事務所(ウガンダ共和国グル市) 日本事務所(京都)
海外における 主な協力団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ウガンダ Gulu Support the Organization(GUSCO)、Gulu NGO Forum</li> <li>●ラオス MAG-Lao</li> <li>●カンボジア Mine Advisory Group(MAG)、Cambodia Trust</li> <li>●コンゴ民主共和国 GRAM Kivu</li> </ul>

役員・体制	
理事	小川真吾(特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事長) 鬼丸昌也(特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事) 岡田多母(有限会社アースエネルギー研究所取締役) 中井隆栄(株式会社サビエンスマネジメント代表取締役)
監事	鯉田勝紀(公認会計士・税理士/鯉田会計事務所)
顧問	小田全宏(特定非営利活動法人日本政策フロンティア理事長)
スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本事務局 有給専従職員7名、無給専従職員1名、フェロー2名、インターン15名</li> <li>●ウガンダ事務所 ローカルスタッフ16名</li> <li>●カンボジア事務所 日本人有給職員1名、ローカルスタッフ6名</li> </ul>
会員数	正会員123名/個人賛助会員308名/ジュニア賛助会員12名/団体賛助会員52団体/ ファンクラブ会員527名【合計延べ1022名・団体】
加盟団体	特定非営利活動法人関西NGO協議会 地雷廃絶日本キャンペーン 日本小型武器行動ネットワーク ウガンダ小型武器行動ネットワーク 国際小型武器行動ネットワーク 世界子ども兵禁止連盟 京都NGO協議会 児童労働ネットワーク グルNGOフォーラム 特定非営利活動法人遠野まごころネット 京都経営品質協議会 素晴らしき経営研究会



## シンボルロゴマーク コンセプト

五色の輪は、アフリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ、ヨーロッパの五大大陸を意味しています。多様な価値観をもつ人々がつながり、ひとつの輪(和)を作り上げていく、そんな世界をめざす、平和への願いがこめられています。

# 目的の世界

## 目的(ヴィジョン)

すべての生命が安心して生活できる社会(=世界平和の実現)の実現

# 使命の樹

## テラ・ルネッサンスのミッション(使命)

当会の事業を通じ、人々に『次世代に対する責任』を啓発し、それぞれが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活(簡素な生活)を実践することにより、人類共通の理想『世界平和』を実現する。

# 理念の土壌

## テラ・ルネッサンスの活動理念

1. 私たちは一人ひとりに「未来をつくる力」があると信じ、市民の可能性を追求しています。
2. 私たちは内なる変化がすべての変化の始まりであり、変革の主体者は私自身であることを理解しています。そして、他人も変革の主体者であることを理解し、相手を尊敬しています。
3. 私たちはあらゆることは常に変化することを理解し、あきらめずに活動し続けています。



# 東日本大震災復興支援事業：日本

東日本大震災の復興支援を行うため設立した「ともつな基金」により、緊急人道支援や大槌復興刺し子プロジェクト等を実施しました。

## 大槌復興刺し子プロジェクト概要

### 目的：

刺し子商品を企画・販売し、東日本大震災で被災された方々への商品制作代金の支払いを通じて、生活再建を促進する。また、商品制作にあたり技術講習会などを通じ、被災された方々の相互交流を活性化させ、心理社会的負担の軽減を図る。

対象地域：岩手県上閉伊郡大槌町を中心とした被災地域

対象者／受益者：女性122名

実施期間：2011年6月～継続中

## プロジェクト開始と事業方針

震災後、避難所で特に女性の方が仕事もすることもない状況の中、2011年6月から任意団体「大槌復興刺し子プロジェクト」のボランティアの方々により、針と糸のできる「刺し子」の制作という、手仕事の提供が始まりました。このプロジェクトの継続的な運営のため、同年8月からテラ・ルネッサンスが運営母体となり、以下の事業方針を決定し、プロジェクトを実施しました。

## プロジェクトのめざすもの

東北地方に根ざした伝統技術「刺し子」を活用した事業を展開し、大槌町を含めた岩手・三陸地方での雇用機会の創出を実現し、地域社会の復興、伝統技術の継承や振興に貢献いたします。

## プロジェクト事業方針

テラ・ルネッサンスの活動理念のひとつ「私たちは一人ひとりに未来をつくる力があることを信じ、市民の可能性を追求していきます。」に基づき、海外の事業実施地において、現地職員や地元住民によって、事業を運営・展開できるような体制を目指してきました。本プロジェクトにおいても、東日本大震災から10年後の2021年までに、NPO法人テラ・ルネッサンスから、独立採算による別法人化を果たし、現地職員と地元住民の皆さんによる運営を実施いたします。

その実現のために、以下の事業を実施いたします。

## プロジェクト事業方針・実施事業

1. 刺し子商品を企画・販売し、被災された方々への商品制作代金の支払いを通じて、生活再建を促進する。
2. 商品制作にあたり技術指導講習会などを通じ、被災された方々の相互交流を活性化させ、心理的社会的負担の軽減を図る。
3. 本プロジェクトを、コミュニティビジネス（※1）として成立させ、継続的な事業展開を通じて、岩手・三陸地方における雇用を促進する。
4. 刺し子を中心とした伝統技術を活かしたビジネスモデルを構築することで、伝統技術の継承・振興に寄与する。

※1. コミュニティビジネス：地域の課題を地域住民が主体的に、ビジネスの手法を用いて解決する取り組み

## プロジェクトの活動

震災により甚大な被害を受けた岩手県大槌町で、20～80代の、主として中高年の女性の方々に、地域の集会所などで技術講習を行い、刺し子商品を制作していただきました。商品の種類は、コースター、ふきん、大人用Tシャツ、子ども用Tシャツです。これらを毎週開催する「刺し子会」で、刺し子さん（刺し子を制作する方）から買い取り、新しく材料を配布しました。制作代金を受け取った80代のおばあさんは、「嫁にお米を買ってあげられた。家族に喜んでもらうのが一番。」「お金を貯めてテレビが買えた。」と、ご自身で収入を得て喜んでいました。またこの「刺し子会」では、商品を完成させる作業の一部（アイロンがけ、包装等）を刺し子さんに手伝っていただいています。この作業を通じて、震災で離れ離れになった方との再会や、刺し子さん同士の新たな出会いが生まれています。完成した商品は、イベントでの手売り販売、プロジェクトサイトによるインターネット販売、FAX注文受付での販売を行い、また販売代理店でも取り扱っていただいています。

上：Tシャツ 中：ふきん 下：コースター



## プロジェクトの実績

販売枚数：9,751枚 売上：9,925,600円

刺し子さん（※）の登録人数：178名

刺し子さん（※）の収入：5,691,150円 ※刺し子商品を制作する方

2012年3月31日時点（累計）



制作したコースターを手に



刺し子会の様子

## 緊急支援

以下のような物資の支援を行いました。

- 5月14日冷凍庫3台を、陸前高田市内のコミュニティセンターに提供しました。(協力:名備運輸株式会社様)
- 6月16日大槌町の金沢小学校(避難所)へ支援物資を提供しました。(協力:宗教法人松緑神道大和山様)



避難所への物資支援



冷蔵庫3台の提供

## 調整機関の能力強化

- 4月～6月 【遠野市】「遠野まごころネット」へ物資配給の調整などを行う人材(臨時職員)を派遣。
- 6月20日(月) 【大槌町】岩手県大槌町大ヶ口集会所にて炊き出しをコーディネート
- 7月04日(月) 【陸前高田市、大槌町】避難所にてボランティアカットをコーディネート(協力:テラメア様)
- 7月09日(土) 【大槌町】大槌中学校前テントにて、「おとなりコミュニケーションLive」をコーディネート(協力:Dew様、小山田壮平様)
- 7月14日(水) 【大槌町】大槌町中央公民館にてtayutaさんのライブをコーディネート(協力:tayuta様)
- 8月07日(日)～08日(月) 【大槌町】タツ・オザワさんによるボランティア撮影をコーディネート(協力:タツ・オザワ様)
- 8月09日(火) 【大槌町】岩手県大槌高校にて開催された、本間正人さんの特別授業をコーディネート(協力:本間正人様)など



tayutaさんのライブの様子



大槌町大ヶ口集会所にて炊き出しの様子

## 西水美恵子氏の講演会

2011年11月18日に、岩手県釜石市において元・世界銀行副総裁である西水美恵子氏を講師として招き、講演会を主催しました。講演のテーマは、「私たちの復興へ・雷龍の国ブータンから学ぶ」で、参加者は48名でした。翌19日に、西水氏が大槌町にて「刺し子会」を見学し、刺し子を制作する方々と交流しました。

右:講演会の様子



## 刺し子さんたちの「声」

2012年の1月、2月に、刺し子さんたちの声をお聞きました。これは、さまざまな環境、立場でプロジェクトに参加する刺し子さんのことをより深く知り、プロジェクトの改善、発展に活かすことを目的として実施したものです。アンケートは、プロジェクトに参加する刺し子さんのうち、任意の40名を対象に行われました。刺し子さんたちが、刺し子プロジェクトの活動で感じていらっしゃる思いについて知ることができるというのは、本当に大切なことでした。以下はその結果です。

### 刺し子さんの声(抜粋版)

「普通に生活していた日々が、突然自宅も流され大切な家族も犠牲になり、絶望のどん底の中にいた時にこのプロジェクトに出会った。当初は針を持ったことがあまりなかったのでできるかどうか不安もあったが、**気持ち的にも大変救われました**。今こうしていただけるのもこのプロジェクトによるところが大きいと思っています。何かをするって本当にいいとつくづく思い、感謝しています。」(60代)

「刺し子がないときは、私のような80代でも何かできないのかとさびしく、昔は針仕事をして楽しんでいましたが今は何か縫いたくても何もなくて、ただ仮設でいろいろと悩んでいましたところ、テレビか広報を見て、行ってみたいところ、これは**自分もできる**と思いやってみました。よくでき、4万円も働いて嫁にあげました。米でも買ってと言って渡しました。家族に喜ばれるのが一番です。」(80代)

### 刺し子をして良かった理由

- ・仕事もまだなく、子どもを預けられる状態ではないため、このようなプロジェクトに参加させてもらい**少しでも収入が得られる**ようになって良かったです。(20代)
- ・収入がまったくなかったのが、刺し子をすることにより収入を得ることができました。さまざまな不安や考え事をする時間ばかり過ぎていましたが、集中して刺し子をするので**時間を有意義に使うことができる**ようになり、とても良かったです。(30代)
- ・一日中何もしないのは大変で、時間が経つのも遅いような気がします。少しでも目的・目標があれば前に**進んでいるという実感**が持てるので良かったです。また、**集会所でいろいろな年齢の人たちとも話ができる**ので良かったです。(50代)
- ・毎日楽しく過ごせるようになりました。(60代)
- ・一針一針心を込めてまっすぐに縫うことが何年かぶり。**友達も増えました**。(70代)
- ・狭い仮設住宅で、夜はテレビと本だけで過ごしていましたが、刺し子会に参加できて「今夜は1枚できるかな」「半分まで進むかな」と思うと**仮設に帰るのも楽しくなりました**。(60代)

## Pick Up!

氏名:澤向美希 所属:大槌復興刺し子プロジェクト プロボノスタッフ

数百キロ離れたところで、日々一針一針刺し子が続ける「刺し子さん」たち。当たり前ですが100人いたら100通りの環境、状況があります。そんな当たり前の中に思いを馳せる、とても貴重な資料となりました。日々の製作業務に追われる中、刺し子さんとのコミュニケーションを大切にしながらこのような機会を作ってくれた現地メンバーと、快く協力してくださった刺し子さんたちに心から感謝です。これからも長くプロジェクトを存続させられるよう、そのためにもみなさんに愛される商品をお届けできるよう、それぞれの場所ですることを続けていきたいと思っています。



## Staff Voice

氏名:牧野由起子 所属:大槌復興刺し子プロジェクト事務所 役職:技術/総務/会計担当

2011年度から始まった大槌復興刺し子プロジェクト。試行錯誤を繰り返す中、多くの人に支えられ、プロジェクトを進めてきました。これから、プロジェクトの現地化に向けて、越えなければならない山は幾つもあります。一步一步、決してあきらめることなく、よりよいプロジェクトを目指して、これからも活動に邁進してまいります。ウガンダでも、カンボジアでも、そしてここ日本でも。「一人ひとりに未来をつくる力がある」のですから。



# 国際協力事業：アジア



## カンボジア地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト概要

**目的：** 地雷埋設地域の貧困を削減し、地雷被害者や、元子ども兵、小型武器の被害者を含む紛争被害者が、自立して生活できるようにサポートするとともに、新たな地雷&不発弾事故を防止する。

**対象者／受益者：**

カムリエン郡トラン区オッチョンボック村貧困層100家族  
カムリエン郡バン・ルン区プレア・プット村貧困層80家族  
カムリエン郡カムリエン区ロカブス村貧困層100家族

**対象地域：** カンボジア王国バタンバン州地雷埋設地域

**実施期間：** 2006年～継続中

## 村人の自治による村の発展

バタンバン州カムリエン郡の3村で、村落開発支援を実施しています。3村は、いずれも提携する地雷撤去団体MAGによって、地雷撤去が実施されています。このプロジェクトでは、村人たちの自治によって村を発展させ、最貧困層、特に厳しい生活環境におかれている地雷被害者やその家族の生活をサポートしていくものです。

## オッチョンボック村

村落開発支援を始めた2008年以来、小規模融資や健康保険の制度を村人たちが運営してきました。2011年度までに健康保険は、約362.5ドルが貯蓄され、亡くなった1名と病気の治療のために、2名に適用されています。村の小学校では、第5回「『頑張らない』チャリティ・バドミントン大会」の収益からご寄付いただき、学習机と椅子を76セット提供しました。また、村の地雷被害者の3家族へ、自然養豚方法を用いた豚飼育技術を実施しました。



第5回「『頑張らない』チャリティ・バドミントン大会」から寄贈された机椅子で勉強するオッチョンボック村小学校の子どもたち

## プレア・プット村

プレア・プット村の住民組織では、小規模融資や健康保険制度の運営を2009年から始め、2011年度は、亡くなった人がいる2家族へ、保険が適用されています。また、NPO法人コミュニティ時津様からのご寄付で、小学校の教員用宿舎を建設しました。また、村の子どもたちへは、NPO法人コミュニティ時津様を通して、時津小学校から送られた文房具や衣服が届けられました。スタディツアーの際にも、京都文紙事務用品組合からの文房具を届けています。また、自然養豚方法を用いた豚飼育の技術を、4家族の地雷被害者家族へ提供しました。その他、この村に自生している竹を利用し、最貧困層の村人19家族にうちわを製作してもらい、彼らの収入向上に役立っています。2011年度は、1,300枚を製作しました。

## ロカブス村

2011年1月より支援を開始し、村人たちと村に住民組織を設立し、小規模融資や健康保険の仕組みづくりをしています。この村では5名の村人の病気の治療費と、亡くなった2名の家族へ、それぞれ健康保険が適用されています。また、村の小学校には、スタディツアーの際、京都文紙事務用品組合よりご寄付いただいた文房具を提供しています。また、ツアー参加者と子どもたちが一緒に、小学校の清掃活動を実施しました。2011年6月から2012年4月10日まで、約10ヶ月間にわたり、女性地雷被害者の現地スタッフ、サムリット・ラウを村へ派遣し、村の貧困層の若い女性7名へ裁縫技術訓練を実施しました。

上：文房具や絵本、衣服を送ってくれた長崎の時津小学校の子どもたちへメッセージを送るプレア・プット村の小学生たち  
中：豚の面倒を見るプレア・プット村の地雷被害者バン・ブンさん  
下：ロカブス村の小学校の空き教室を利用して実施している裁縫技術訓練の様子



## カンボジア地雷回避教育プロジェクト概要

**目的：** 地雷回避教育用グッズの製作・配布により、地雷汚染地域の住民に地雷の危険性を知らせ、地雷・不発弾事故を減らす。

**対象地域：**  
カンボジア王国北西部地雷汚染地域

**対象者／受益者：**  
カンボジア王国北西部地雷汚染地域の住民

**実施期間：**  
2010年～継続中

## うちわ 地雷団扇でクールに啓発！

テラ・ルネッサンスでは、地雷の危険性を知らせる地雷回避教育用グッズとして地雷うちわを製作し、提携する地雷撤去団体MAG (Mines Advisory Group)のコミュニティ・リエゾン・チームが実施する地雷回避教育のワークショップで、地雷埋設地域に住む住民たちへ配布しています。2011年度は、1,300枚の地雷うちわを製作し、地雷埋設地域のバタンバン州カムリエン郡のワークショップにおいて配布しています。



地雷うちわを受け取り、興味深く眺めるカムリエン郡の地雷埋設地域の村人たち

## カンボジア地雷 & 不発弾撤去支援プロジェクト概要

**目的：** 2012年までに「犠牲者ゼロ (Zero Victim)」、2015年までに「汚染影響ゼロ (Impact Free)」、2020年までに「地雷の完全撤去」を目指し、貧困地域の開発支援へとつなげる。

**対象地域：** カンボジア王国北西部地域 (バタンバン州、プルサット州、バンテアイ・ミエンチャイ州、パイリン特別市)

**対象者/受益者：** 地雷撤去団体MAG カンボジア王国北西部地域の住民 **実施期間：** 2001年～継続中

## 村人たちの安全を取り戻すために

2011年3月のスタディツアーの際に、提携する地雷撤去団体MAGへ、地雷撤去活動費として4,000ドルを提供しました。2011年度は、MAGが撤去活動をするパイリン特別市の地雷原視察を3度実施しています。

## カンボジア地雷埋設地域伝統音楽復興 & 継承プロジェクト概要

**目的：**

1. 地雷被害者を含む演奏技術を持つ貧困層による楽団を結成し、伝統音楽活動を通じた収入向上活動、貧困削減を達成する。
2. 楽団の結成による伝統音楽の再興と、結成した楽団メンバーが、地域の子どもたちに伝統音楽の演奏技術を教えることによって、次世代の演奏家を育成し、伝統音楽が次世代に継承されていくことを目指す。

**対象者/受益者：** オッチョンボック村住民組織約100家族。特に地雷被害者などを含む貧困層住民10名、オッチョンボック村の小学生

**対象地域：** カンボジア王国バタンバン州カムリエン郡トラン区オッチョンボック村 **実施期間：** 2010年11月～2012年10月



## 伝統音楽を地雷埋設地域の村で継承

昨年度に引き続き、バタンバン州カムリエン郡のオッチョンボック村にて、トヨタ財団のアジア隣人プログラム助成金によるプロジェクトを実施しています。村の貧困層や地雷被害者らで構成されるクメール伝統音楽楽団は、カムリエン郡の結婚式や第11回対人地雷禁止条約締約国会議の政府代表団のフィールド視察で演奏し、その謝礼による収入を得ています。2011年には、伝統楽団を宣伝するための団扇を製作し、カムリエン郡で配布しました。また、村の小学校では、放課後に村の子どもたちを対象にした伝統楽器のトレーニングが実施され、村での伝統技術の継承を目指しています。

## Staff Voice

氏名:クン・チャイ 所属:カンボジア事務所 役職:プロジェクト・コーディネーター

2011年度のプロジェクトの結果は、80%がポジティブなものだったと考えています。もちろん困難なこともありますが、それを乗り越え、学んだ教訓を次年度からのプロジェクトに活かしていけると考えています。現地スタッフそれぞれが、プロジェクトの経験から学び、それを活かしていくことで、より良いプロジェクトが実施できると考えています。村人たちや現地行政との協力も図りながら、今後も平和な社会の実現のために尽力していきたいと思っています。



## カンボジア地雷埋設地域小学校建設プロジェクト概要

**目的：** 地雷埋設地域の教育環境を整備し、遠隔地の子どもたちに教育の機会を提供し、村の将来を担う人材を育成する。

**対象地域：**  
カンボジア王国バタンバン州バヴェル郡クドゥル・ターハエン区ブオ・ソクリアチ村  
カンボジア王国パイリン特別市サラ・クラウ郡オウ・アンドン区オウ・チェット・プラム村

**対象者/受益者：**  
ブオ・ソクリアチ村の小学生と幼稚園児約250名と教員6名  
オウ・チェット・プラム村の小学生240名と教員4名

**実施期間：** 2011年3月～継続中

## 地雷埋設地域の掘立小屋から希望の小学校へ

### ブオ・ソクリアチ村小学校建設

2011年3月より、バタンバン州バヴェル郡のブオ・ソクリアチ村にて、日本の外務省から日本NGO連携無償資金協力を受け、小学校建設を実施しました。プロジェクトでは、6教室の小学校校舎だけでなく、トイレ、雨水を貯める貯水タンク、教員用宿舎も同時に建設し、教員、生徒用机椅子、黒板を提供しました。2011年10月から小学1年-6年生までの生徒210名と幼稚園児40名が、この小学校に通っています。12月には図書室を設置し、合計600冊以上のクメール語の本と日本語のクメール語訳付きの絵本を、提供しています。最貧困層の村人の子どもたち61名には、制服も提供しています。また、2012年3月のスタディツアーでは、NGO地雷ゼロ宮崎からのおもちゃを幼稚園クラスへ、京都文紙事務用品組合からの文房具を、全校生徒へ渡しています。



図書室に寄贈された絵本やドラえもんなどのクメール語版を読むブオ・ソクリアチ村の子どもたち

### オウ・チェット・プラム村小学校建設

パイリン特別市のオウ・チェット・プラム村で、鹿児島(株)トータルハウジング様からのご寄付により、5教室の小学校と2基のトイレを建設し、2011年10月に開校式を行いました。クメール・ルージュ軍の拠点があったこの村では、多くの地雷が埋められていましたが、地雷撤去団体Halo Trustによる地雷撤去後に、小学校を建設しました。周辺の村からも合わせて240名の子どもたちが通っています。



鹿児島(株)トータルハウジング様によるご支援で建設したオウ・チェット・プラム村小学校の開校式の様子

## その他の活動

### ○第11回対人地雷全面禁止条約締約国会議への参加

2011年11月末から12月始めにかけて、カンボジアの首都プノンペンで、第11回対人地雷全面禁止条約締約国会議が開催され、江角駐在代表と現地スタッフのボレンが参加しました。同時に提携する地雷撤去団体MAGへの各国政府代表団のフィールド視察では、地雷埋設地域の貧困層や地雷被害者で構成されるオッチョンボック村のクメール伝統音楽楽団が、演奏を披露しました。

### ○ASEAN違法小型武器・不発弾問題に関するワークショップへの参加

2012年3月末にASEANの違法小型武器・不発弾問題に関するワークショップが、カンボジアの首都プノンペンで開催されました。日本政府の資金によって開催されたワークショップでは、ASEAN各国の代表者が参加し、5日間の会議やカンボジアの武器管理倉庫のフィールド視察が行われました。テラ・ルネッサンスからは、江角駐在代表と現地スタッフのクン・チャイが参加しました。



# 国際協力事業：アフリカ

## 新規(第6期生)の元子ども兵を受け入れました

2011年7月に、第6期生となる元子ども兵20名を受け入れました。2006年8月の停戦合意以降、ウガンダ北部の治安は良くなっている一方、未だ多くの子どもたちが隣国へ連れ去られたままの状況が続いています。今回、受け入れた元子ども兵のほとんどは、その隣国、コンゴ民主共和国での戦闘に駆り出され、そこから無事に帰還しました。しかし、長年、生まれ故郷を離れ、地元へ帰還した元子ども兵たちは、精神的にも大きな傷を負っており、生活をする術もありません。今年度は、彼ら彼女らに対して、生活費(衣食住)の支援と共に、自立に向けての職業訓練や基礎教育、心理社会支援を行いました。現在、訓練プログラム(1年半)の折り返し地点に差しかかり、多くが洋裁や木工大工などの職業技術を身につけることができます。今年の12月にはその習得技術を使って実際に町や村で、収入を得る練習を開始していきます。



洋裁の職業訓練の授業で、子ども服を製作した第6期生の元子ども兵

### ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト

**目的：** 元子ども兵が社会復帰するために必要な能力を身につけ経済的に自立するとともに地域住民との関係を改善し、コミュニティで安心して暮らせるようになる。

**対象者／受益者：** 元子ども兵149名及びその家族約700名／地域住民105名

反政府軍に誘拐された元子ども兵の中でも拘束期間が長期にわたり帰還後も親や親戚をなくしている元少女兵(チャイルドマザー)及び障害を負って帰還してきた元少年兵などの社会的弱者を優先的な受益者として選定。地域住民は上記の元子ども兵が帰還している地域の貧困層住民を優先的な受益者として選定している。

**対象地域：** ウガンダ共和国、グル県、キットグム県、パデー県、アムル県

**実施期間：** 2005年～継続中

## 自らの力で生活を支え始めた元子ども兵たち

昨年に引き続き、ウガンダ北部で誘拐され、兵士として戦わされてきた元子ども兵への社会復帰支援を行いました。昨年度に受け入れた第5期生の元子ども兵38名は、フルタイムの職業訓練を終え、自らの力で生活を再建し始めました。誘拐された時の平均年齢は13.1歳と若く、当施設に受け入れた当初は、多くが小学校も卒業することができないまま、一般社会で生きる術を持っていませんでした。しかし、1年半の訓練を終え、全員が洋裁、服飾デザイン、または木工大工の技術、小規模ビジネスの知識を習得することができました。そして、現在は地元の村々でそれぞれが木工店や洋裁店、小売業を営み始め、生活に必要な収入を得ることができるようになっています。まだ収入が不安定な元子ども兵もいますが、近隣住民との相互扶助(助け合い)の活動に多くの元子ども兵が参加できるようになり、地域社会のつながりの中で自立に向けての歩みを続けています。今年の8月を目処に5期生全員の社会復帰支援を完了する予定です。



裁店を開いた5期生の村(職場)を訪れ、ミシンのメンテナンス、修理方法を教える現地職員

## 現地の人々が持つ知恵とチカラを信じて 現地人主体の事務所運営

今年度より、ウガンダでの元子ども兵支援事業は、現地職員主体の運営体制に移行しました。現場での活動で最も大切なことは、「『現地の人々が持つ知識や知恵を最大限、尊重すること』、そして、支援をする現地職員に『オーナーシップを持ってもらうこと』」という認識のもと、6年間、駐在した日本人職員が現地人への体制移行を進めてきました。初の現地職員のみでのプロジェクト運営であったにもかかわらず、これまで同様、きめ細かく、受益者の状況に合わせて「オーダーマイド」に支えるという、当会の援助手法を引き継いで、見事に一年間の事業を成し遂げてくれました。まだ、現地職員の事業運営能力やリーダーシップに関しては課題が見受けられますが、徐々に、全スタッフがオーナーシップを持って事業を展開できるように、現地職員のチームビルディングを進めていきたいと思っています。今後も、現地の「人々」が、「地域」が、「国」が自立できるように、テラ・ルネッサンスとしてできる限りの支援を続けていきたいと考えています。



ウガンダ事務所 現地職員への研修風景

## 不法小型武器問題啓発プロジェクト

**目的：** 不法小型武器問題に関する市民の意識を向上するとともに、政府と市民社会の協力関係を強化する。

**対象者／受益者：** 不法小型武器の被害を受けている地域の住民

**対象地域：** ウガンダ共和国、カンパラ市

**実施期間：** 2005年～継続中

## 不法小型武器問題についてのセミナーを開催しました

ウガンダ国内で不法小型武器問題の啓発活動に取り組むNGOのネットワーク組織であるUANSA(ウガンダ小型武器行動ネットワーク)と定期的な情報交換を行い、小型武器行動週間(6月)に合わせて同地域の一般市民への小型武器問題の啓発活動(セミナー)を開催しました。



上: 自給食料を相互扶助を通して確保(生産)する活動の説明を受ける受益者たち



## 自立のための収入向上支援活動

同地域では、都市部に出稼ぎに行く以外に現金収入を得る方法が限られており、低賃金で鉱物資源の採掘や日雇い労働に従事する以外は、ほとんど雇用の機会もありません。また、こうした収入源は不安定であるだけでなく、不公平な条件で、外部のビジネスマンや裕福層(または武装勢力)に搾取されることにもつながっています。同活動では、受益者がオルタナティブな方法で、安定した収入源を確保することを目指し、衣服や家具など地元住民にとってもニーズの高い製品を生産するための技術訓練を行っています。今年度、洋裁技術を身につけた受益者36名を対象に、小規模ビジネスの指導及び、洋裁店の開業支援を行いました。より持続的で安定した収入が得られるように、地域別にグループを組織して、5つの村で洋裁店の拠点となる簡易施設の建設を行い、その運営方法についての研修を行いました。同地域での治安は安定していないため、緊急的な支援も行いながら、受益者が生活を安定していけるように今後も自立支援を続けていく予定です。



上: 洋裁店となる施設建設を地元住民らと共に行う受益者たち

中: 完成した洋裁店(ルシェニ村)

下: ミシンのメンテナンスを学びながら洋裁店の開店準備をする受益者たち

## Staff Voice

氏名: オテマ・ジミー 所属: ウガンダ事務所 役職: 所長

まず、日本での地震、津波被害により命を亡くした方々に心より哀悼の意を捧げたいと思います。日本の方々のおかげで、私たちウガンダ北部で紛争被害を受けた人々はたくさんの希望をもらいました。今、日本の方々に対してできることは限られていますが、ウガンダ事務所を運営する私としては、テラ・ルネッサンスの理念のもとに開始された同地での事業を安定的に運営していくことが、せめてものできることであると自覚しています。これから、ウガンダ事務所職員一同、テラ・ルネッサンスの「現地のオーナーシップを尊重する」という想いに応えられるように、精一杯の支援活動を続けていきたいと考えています。これからも、ともに、平和で安心した生活を実現できるように、日本の皆様と歩んでいけることを心よりお祈り申し上げます。



## コンゴ東部地域における元子ども兵及び紛争被害者エンパワーメントプロジェクト フェーズII

**目的：** 元子ども兵及び紛争被害者がエンパワーメントされ、BHN(人間としての基本的ニーズ)を満たして生活できるようになる。

**対象地域：**  
コンゴ民主共和国、南キブ州カレヘ行政区カロンゲ区域12カ村  
(ルシェニ村、ムシャデウ村、チョロベラ村、プシャイ村、マルンデウ村、チギリ村、テウラマンバ村、フェンデウ村、ムヴム村、ミヒンガ村、カビング村、ムレ村)

**対象者／受益者：** 元子ども兵及びその家族／地域住民

①直接受益者: 711名(内訳: 元子ども兵171名、性的暴力を受けた女性382名、孤児158名)  
②間接受益者: 直接受益者の家族及び近隣の貧困層住民 約2000名

**実施期間：** 2009年6月～継続中

※「BHN(ベーシック・ヒューマン・ニーズ)」とは衣食住や初等教育、保健医療など人間が生きていくために基本的に満たされるべきもの。1976年に国際労働機関が提唱し、「従来の開発支援が結果として貧困の解消に結びつかなかった」という反省から、人間の基本的ニーズ(BHN)を満たす援助の重要性が強調されるようになった。

※「エンパワーメント」とは相手に対して「自分には力がある」という気付きを促し、その人が内在的に持っている「力」や「能力」を引き出していくこと。

## 自給食料を確保するための活動

昨年度に引き続きコンゴ民主共和国南キブ州にて、同州ブカブ市に拠点を置く現地NGO「GRAM(グラム)」と連携し、元子ども兵及び紛争被害者への支援活動を行いました。同活動では、2008年、株式会社アイケイ様のグローブ基金により完成したグローブハウスIIIを拠点に、対象地域12カ村の元子ども兵及び性的虐待を受けた女性、孤児などの社会的弱者及びその家族の「BHN(人間としての基本的ニーズ)※」を満たすことを目的に行っています。現在も武装勢力(FDLR)による村々の襲撃や住民の殺害、食料の略奪によって現地の人々は不安定な生活を余儀なくされています。こうした状況下で、必要な食料を確保するために相互扶助グループ(12カ村)を組織し、農業指導や農具、種子の供与、魚の養殖池の整備支援を行いました。治安の悪化に伴い、耕していた土地を離れ避難せざるを得ないグループもありましたが、他のグループとの相互扶助を促進することで、最終的に、全グループが自給用に必要な食料を確保することができました。また、農業とともに、魚の養殖方法を指導し、昨年度、完成した「共用ため池」で、4ヶ村の元子ども兵らのグループが魚(ティラピア)の養殖を共同で行いました。1000匹以上の成長した魚を収穫することができました。収穫された魚の半分は食用として消費し、残り半分を、各4ヶ村に整備した、それぞれのため池に放流しました。今後、各村のため池で養殖活動を元子ども兵らのグループが自主的に管理をしていけるように支援を行っていく予定です。

# 現場スタッフの想い

## ウガンダ共和国

これまで日本からウガンダ北部の支援を続けてくださった皆様に心から感謝します。テラ・ルネッサンスの活動が始まるまで、この地域で紛争の被害を受けた元子ども兵たちは、自分の力で生きることができない状況でした。しかし、この7年間の支援によって、多くの元子ども兵たちが生活を再建することができるようになりました。私自身は、テラ・ルネッサンスウガンダ事務所のセキュリティ担当として働いています。開発援助に関する難しいことはわかりませんが、私のようなスタッフに対しても、テラ・ルネッサンスでは、一人のチームメンバーとして尊重してくれました。そのことで、私は自分の仕事にプライドを持って働くことができている。私にできる役割を最大限、発揮していくことが、現地での活動の成功につながると信じています。これからも、ウガンダ事務所の安全と安心を守ることを一生懸命続けていきたいと思っています。そして、日本の皆様とともにウガンダの平和を思い、活動を続けていきたいと考えています。

テラ・ルネッサンス ウガンダ事務所 セキュリティ担当 オチャカ・ジャコブ

## コンゴ民主共和国

コンゴ民主共和国では未だに多くの人々が紛争の影響で命を失っています。そんな中、日本からの支援は、多くの命を救ってくれました。これまで、援助をビジネスチャンスとしか考えていない人々はたくさんコンゴにやってきましたが、本当にこの国のことを想ってくれる支援はごくごく小さな規模でしかありませんでした。テラ・ルネッサンスの活動は、規模は小さくとも、間違いなくコンゴの草の根の人々のことを想う支援です。このような支援活動を現地スタッフとして担うことを私は誇りに思います。たとえ、大多数の人々が富裕層のための経済開発や、大国からの政治的支援に迎合している状況であっても、私は、これからも本当に草の根の人々の視点を忘れずに、現場での支援活動を続けていきたいと思っています。これまで、コンゴの人々のことを思い、支援を続けてくださった日本の人々に心から感謝申し上げます。また、今後、テラ・ルネッサンスのコンゴ事務所を安定して運営していけるように、私自身のベストを尽くしていきたいと思っています。

テラ・ルネッサンス コンゴ事務所 所長 テオフィー・シチバンジ

## カンボジア王国

私は、2009年4月よりテラ・ルネッサンスで働き始めました。バタンバンにあるリハビリテーションセンターで、14歳の時に地雷事故で失った左脚にはめる義足の交換に来ている時に、クン・チャイ氏(テラ・ルネッサンス カンボジア事務所 職員)に会い、それがきっかけで、テラ・ルネッサンスで働くことになりました。でも、私が子どもの時はポル・ポト時代と内戦時代で、学校に通うことは難しく、小学4年生までしか勉強できなかったため、この仕事を始めたときは、クメール語の読み書きも十分にできませんでした。今は、クメール語の読み書きはもちろん、パソコンを使ったり、英語も少しだけ話せるようになってきました。そして何より以前よりも、仕事を理解して、出来るようになって来ました。私と同じ地雷被害者や地雷埋設地域に住む貧困層の人達をサポートするテラ・ルネッサンスで働けることを嬉しく、誇りに思います。

テラ・ルネッサンス カンボジア事務所 会計担当 ヨート・イェト

## 日本 (京都府)

私は、2010年から2年間はインターンとしてテラ・ルネッサンスに関わり、2012年の3月からはフェローとしてテラ・ルネッサンスに勤務しています。フェローとしての私の役割は、主にインターンが仕事をしやすい様にサポートするというものです。私自身、テラ・ルネッサンスに関わった当初は、自分に何が出来るのか、自分がやっていることが現地の人々の生活とどう繋がっているのかイメージできず、不安や迷いを抱えながら仕事をしていました。その中でも、職員・インターンの方とのやり取りの中で自信や仕事に対するモチベーションを得る事ができました。その経験からも、インターンをサポートするという現在の役割にやりがいを感じています。また、インターン全員がその人らしくテラ・ルネッサンスに関わることができるようにお手伝いすることが、ウガンダやコンゴ、カンボジア、ラオス、日本の人々の人生や夢を支えることにも繋がると考えています。

テラ・ルネッサンス 日本事務局 フェロー 細見 俊

## 日本 (岩手県)

東日本大震災の時、友人達に被災地に物資を送るのを手伝えないかと声を掛けてもらい私は初めてボランティア活動をしました。当初車両の燃料が規制されている中での支援物資の運送は思っていた以上に大変な事でしたが、それでも何とか活動出来ました。ほんの少ししかない物資を渡しただけで涙を流しながら受け取ってくれた人たちの顔を今でも思い出します。その後、地元の岩手県に戻り、テラ・ルネッサンスの東日本大震災復興支援事業で働くことになり、現在、大槌復興刺し子プロジェクトで活動しています。プロジェクトでは、商品の検品を担当し、刺し子さん達と話し合う機会、触れ合う機会が多くあります。生活環境や心境等が辛い中でも、前を向き頑張っていく人たちの手伝いが出来るように頑張る活動して参ります。

テラ・ルネッサンス 大槌復興刺し子プロジェクト事務所 顧客対応/製造担当 関 貴広

# 皆様とのつながりの活動



## たどり着いたのが遠野だった

(NPO法人遠野まごころネット)

岩手・三陸沿岸での支援を模索していた私たちは、遠野市に被災地を支援するNPOが集まっている団体があると聞き、たどり着いたのが遠野まごころネットでした。彼らは相談に赴いた私たちを「共にできることを」と暖かく迎えてくださったのです。そこから、本会職員を遠野まごころネットに派遣。被災地支援が本格化していったのです。



## ウガンダでの協働経験が、被災地支援に活きる

(宗教法人松緑神道大和山様)

岩手県遠野市を本拠地に定めた私たちに降りかかった課題が、派遣職員の住居が見つからないということでした。その時、すぐさま施設を提供してくださったのが松緑神道大和山様。その後も、遠野市での事務所開設や、大槌町での調査など、いろいろな機会でご支援くださいました。それは、ウガンダでの元子ども兵社会復帰支援プロジェクトを立ち上げ当初から支えてくださり、互いの信頼関係が構築されていたからこそ、被災地支援でもあうんの呼吸で、協働することができたのです。



## さりげない支援を続ける姿に学ぶ

(「ひとと経営研究所 所長」：大久保寛司様)

全国各地の企業や行政で、「人に優しい経営」の在り方を教えていらっしゃる大久保寛司様。時折、企業での研修謝礼をテラ・ルネッサンスへの支援金としてご提供くださっています。自分の能力を活かして、企業を元気にし、なおかつテラ・ルネッサンスを強力に支えていただく、そんなさりげない支援の在り方に、いつも人を支えることの大切を教えてくださいたいです。



## 地雷ゼロを目指して共に歩んで

(地雷ゼロ宮崎様)

鬼丸が講演活動を始めた当初、宮崎県内でたくさんの講演の機会を、作ってくださった上野匡毅さん。その時に集ったメンバーを中心に、地雷ゼロ宮崎を結成。テラ・ルネッサンスと共にカンボジアでの地雷除去支援、孤児院の支援などに取り組んでこられました。そんな姉妹団体である地雷ゼロ宮崎様の設立10周年イベントの基調講演に、鬼丸を招聘いただいたことは、とても感慨深いものがありました。



## 水がつなぐ被災地への支援

(有限会社アースエネルギー研究所様)

設立当初から熱心にご支援くださっている有限会社アースエネルギー研究所様。岩手・釜石で採水されるナチュラルミネラルウォーター「新生水」の販売・卸しを事業とされているからこそ、岩手沿岸部への支援に取り組みたいと、被災地支援用パッケージの「新生水」を本会で販売。その収益は、大槌復興刺し子プロジェクトを始めとする被災地支援事業に活用されます。本業を通じた社会貢献こそ、息長く続けることが可能なのです。



## 国際協力が日本のだれかを支えていく

(ファーストジョブステップグループ様)

2009年より協働をはじめた、ファーストステップジョブグループ様(ひきこもり当事者である親と子でつくり、本人に「今のままで」できる仕事を創出し、社会参加への第一歩を促していくことを目的とするグループ)。これまで、使用済みインクカートリッジの仕分け作業や、資料の発送準備などを担っていただき、この協働が社会参加へのファーストステップだけでなく、社会を変えるファーストステップにもつながっています。



# 講演実績 イベント、メディア

平和セミナー（講演）は、紛争に関する事実を伝え、私たちが争いのない社会をつくるために、何ができるのかを考える"場"です。さまざまなデータ、体験に基づいてお話をしています。どんな活動でも、第一歩は「事実を知ること」から始まります。学校の総合学習、行政の国際理解研修、企業の社員研修など、さまざまところで講演をさせていただいています。「わかりやすい」「自分のできることから始めたい」など、多くの方にご好評いただいています。2011年度は4人の講師による講演会を112回実施しました。

講演実績	
企業	株式会社デミック 医療法人社団恵心会京都武田病院 有限会社マハロネットワーク オムロン株式会社 株式会社ワタナベ美装 牧田経営研究会(牧田泰博税理士事務所) りんどう経営研究会(東春信用金庫内) ダスキン全国後継者ネットワーク東海北陸地域 株式会社ウエダ本社 株式会社船井本社 株式会社ミールケア 株式会社お茶村 株式会社NSGアカデミー 株式会社アドバンスサービス株式会社トータルヘルスデザイン ステップ株式会社 ダイイチ株式会社
団体	特定非営利活動法人日本再生プログラム推進フォーラム(NSP) 特定非営利活動法人夢わく島根 特定非営利活動法人ユースビジョン 特定非営利活動法人春日部FM 特定非営利活動法人元気健康活動協会 公益財団法人武蔵野市国際交流協会 公益財団法人名古屋国際センター交流協力課 公益社団法人日本青年会議所中国地区広島ブロック協議会世界平和創造委員会 財団法人あいち男女共同参画財団 一般社団法人日本元気丸 社団法人大阪青年会議所 大阪私立学校人権教育研究会 宗教法人立正佼成会中野教会 宗教法人立正佼成会京都教会 宗教法人立正佼成会川崎教会 熊本県ユニセフ協会 瑞岩寺寺小屋実行委員会 世界連邦推進日本協議会 地雷ゼロ宮崎 あしたのフォーラム実行委員会 京都市山科青少年活動センター 優々会 岡山医療生活協同組合 京都海外協力協会(KOCA) ワンワールド・フェスティバル実行委員会 児童労働ネットワーク(CLE-Net) 希望の光 in Tokyo ミニ希望の光(東京板橋)ミニ希望の光(名古屋) ミニ希望の光(長野)ミニ希望の光(埼玉春日部)ミニ希望の光(茨城)ミニ希望の光(神奈川)ミニ希望の光(千葉) ミニ希望の光(群馬)ミニ希望の光(埼玉川越)ミニ希望の光(東京東村山) 全国青年司法書士協議会 近畿ブロック会 RI.2640地区インターアクトクラブ ライフパーク倉敷市民学習センター 大阪工業大学学園校友会京都府支部 佐賀被災地支援活動報告会 京都伏見ロータリークラブ 泉州カーペット工業懇話会 社団法人大垣青年会議所
教育機関	学校法人大多和学園開星中学高等学校 大治町立大治中学校 愛知教育大学附属岡崎中学校 吹田市立千里第一小学校京都産業大学法学部 茨木市立天王中学校 京都女子大学法学部 四天王寺羽曳丘高等学校 四條畷市立田原中学校 芦屋市立潮見中学校 泉大津市立東陽中学校 静岡県立静岡東高等学校 白鷗大学教育学部教育科学研究所 宇治市立西小倉中学校 椎野学園米沢中央高等学校 門真市立第三中学校 和歌山県高等学校教育研究会英語部会 つくばみらい市立小絹中学校 大阪薫英女学院中学校・高等学校 学校法人湊泉学園多治見西高等学校 姫路市立林田中学校 枚方市立さだ中学校 久留米市立城南中学校 川西町立川西小学校 金光八尾中学校・高等学校枚方市立第二中学校 姫路市立大的中学校 高島市立今津中学校 青森中央学院大学 近江八幡市立八幡小学校 学校法人千代田学園千代田高等学校 龍谷大学 立命館大学 京都女子大学法学部 早稲田大学オープン教育センター 立命館大学サービスラーニングセンター衣笠 立命館大学サービスラーニングセンターBKC 京都光華女子大学
行政	熊本市人事課人材育成センター 寝屋川市人・ふれあい部人権文化課 枚方市市長公室人権政策室 伊達市役所 総務企画部 人事課 新潟県庁 熊本県 総務部 人事課 人材研修室 奈良県人権推進協議会 三重県教職員組合亀山支部

## 主催イベント

テラ・ルネッサンスが取り組む課題や活動の認知と支援者様との交流を目的に様々なイベントを開催しました。

- 04月13日(水) 第1回テラ・カフェ(テラ・ルネッサンスの海外事業)
- 05月11日(水) 第2回テラ・カフェ(ともつな基金～私たちの見た被災地～)
- 06月08日(水) 第3回テラ・カフェ  
(ウガンダを体感しよう!～トシャが日本にやって来た～)
- 06月25日(土) 子ども兵シンポジウム(東京)  
「ウガンダ北部の紛争と子ども兵問題を考える  
～紛争の背景と問題解決に向けての課題～」
- 07月13日(水) 第4回テラ・カフェ  
(国際協力の一步を踏み出そう～インターン・ボランティア～)
- 08月10日(水) 第5回テラ・カフェ(カンボジア事業報告会)
- 09月14日(水) 第6回テラ・カフェ(ウガンダ事業視察報告会)
- 10月12日(水) 第7回テラ・カフェ(コンゴ紛争とその背景について)
- 11月18日(金) 西水美恵子氏講演会  
「私たちの復興へ・雷龍の国ブータンから学ぶ」(岩手)
- 12月14日(水) 第8回テラ・カフェ(NGO・NPOの広報)
- 01月18日(水) 第9回テラ・カフェ(ともつな基金活動報告～被災地のいま～)
- 02月08日(水) 第10回テラ・カフェ(小型武器問題とテラ・ルネッサンスの取り組み)
- 03月04日(日)～03月11日(日) カンボジアスタディツアー
- 03月14日(水) 第11回テラ・カフェ(テラ・ルネッサンスと私(インターン編))



講演風景 上:鬼丸昌也 中:栗田佳典 下:小川真吾

## 各種イベントへの参加・出展

- 06月25日(土) 「頑張らない」チャリティバドミントン大会  
(主催:頑張らないバドミントン研究会)
- 08月07日(土) 国際協カステーション(主催:財団法人京都府国際センター)
- 08月28日(日) peace conference 2011(主催:社団法人大阪青年会議所)
- 09月11日(土) チャリティバザー(主催:宗教法人松緑神道大和山)
- 10月09日(日) カンボジアフェスタ(主催:カンボジアフェスティバル実行委員会)
- 10月16日(日) 京都ヒューマンフェスタ(主催:京都府)
- 02月04日(土)～05日(日) ワン・ワールド・フェスティバル(主催:同実行委員会)

## Pick Up!

### 「頑張らない」チャリティバドミントン大会

(頑張らないバドミントン研究会様)

第5回目となる「頑張らない」チャリティバドミントン大会。「頑張らない」チャリティバドミントン大会の寄付により、小学校の先生や村長さんから要望のあった学習机と椅子を提供しました。(詳細はP14を参照)



## メディア掲載

掲載総数:43件(重複を除く)

読売新聞、河北新報、産経新聞、北海道新聞、毎日新聞、中日新聞、京都新聞、岩手日報、静岡新聞、宮崎日日新聞、朝日新聞、東北復興新聞、Campus Scope、リビング京都 中央、J:COM 週刊ボランティア情報「みんなのチカラ」、東北放送 TBCラジオ「橋幸夫 明日へのエール」、InterFM、NHK国際ラジオ放送(スワヒリ語)、じゃらんムックシリーズ「東北2012-2013」、NHKテレビテキスト「すてきにハンドメイド」4月号、雑誌「いきいき」、ソトコト1月号、女性セブン、岩手めんていテレビ、NHK

# 会計報告

2011年度収支計算書並びに2012年度収支予算書 (単位:円)

I 経常収入の部	2011年度 予算	2011年度 決算	2012年度 予算
1. 会費収入	15,000,000	14,203,000	15,000,000
2. 寄付金収入	26,000,000	52,958,580	33,000,000
一般寄付	10,000,000	23,591,689	10,000,000
アジア事業指定寄付(カンボジア・ラオス)	1,000,000	1,032,711	1,000,000
アフリカ事業指定寄付(ウガンダ・コンゴ民)	10,000,000	8,507,711	10,000,000
ともつな基金寄付	5,000,000	19,826,469	12,000,000
3. 事業収入	19,100,000	19,693,308	42,100,000
啓発事業収入	12,000,000	9,566,630	12,000,000
物品販売収入	7,000,000	10,112,578	30,000,000
その他事業収入	100,000	14,100	100,000
4. 補助金等収入	9,000,000	15,677,167	2,000,000
パナソニック NPOサポート ファンド for アフリカ	-	700,000	-
トヨタ財団 アジア隣人プログラム	-	942,703	-
連合「愛のカンパ」	-	500,000	-
三菱商事震災助成金	-	2,500,000	-
ジャパン・プラットフォーム「共に生きる」ファンド	-	6,542,780	-
真如苑	-	2,500,000	-
京都地域創造基金*	-	1,991,684	2,000,000
5. その他収入		703,111	0
経常収入の合計	69,100,000	103,235,166	92,100,000
II 経常支出の部			
1. 事業費	61,000,000	56,093,205	88,425,205
(1) 国際協力事業費	35,000,000	30,257,067	36,419,150
アジア事業(カンボジア・ラオス)	18,000,000	12,876,195	16,919,150
アフリカ事業(ウガンダ・コンゴ民)	17,000,000	17,380,872	19,500,000
(2) ともつな基金(東日本大震災復興支援事業)	8,000,000	15,363,384	36,006,055
(3) 啓発事業費	12,000,000	6,092,770	10,000,000
(4) 人材育成事業費	1,000,000	1,377,218	1,000,000
(5) 物品販売事業費	5,000,000	3,002,766	5,000,000
2. 管理費	18,000,000	30,167,576	33,000,000
人件費	6,000,000	12,950,671	15,000,000
施設費	2,000,000	2,507,159	3,000,000
諸経費	10,000,000	14,709,746	15,000,000
経常支出合計	79,000,000	86,260,781	121,425,205
経常収支差額	▲ 9,900,000	16,974,385	▲ 29,325,205
III その他資金支出の部			
1. 固定資産購入支出	0	3,152,031	0
2. その他流動資産支出	0	3,512,246	0
その他資金支出合計	0	6,664,277	0
当期収支差額	▲ 9,900,000	10,310,108	▲ 29,325,205
前期繰越収支差額	20,967,659	20,967,659	31,277,767
次期繰越収支差額	11,067,659	31,277,767	1,952,562

\*京都地域創造基金の「事業指定助成プログラム」を利用して寄せられた市民からの寄付を、京都地域創造基金からの助成金として受領しています。

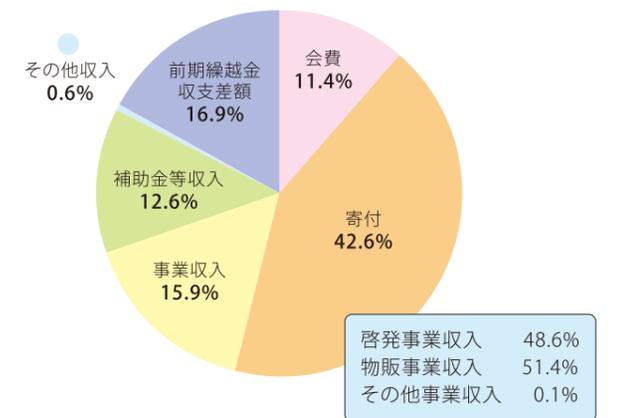
貸借対照表 (2011年3月31日現在) (単位:円)

I 資産の部	
1. 流動資産	43,134,138
現金預金	32,664,260
商品	6,143,489
前払費用	122,500
預け金	3,389,746
貸付金	812,543
その他流動資産	1,600
2. 固定資産	8,030,975
有形固定資産	
建物	5,559,471
車両運搬具	6,936,378
工具器具備品	695,431
土地	444,234
減価償却累計額	▲ 6,094,539
投資その他資産	
敷金	490,000
資産合計	51,165,113
II 負債の部	
1. 流動資産vz	1,386,813
未払金	1,249,089
預り金	67,724
未払法人税等	70,000
負債合計	1,386,813
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	28,244,144
当期正味財産増減額	21,534,156
正味財産合計	49,778,300
負債及び正味財産合計	51,165,113

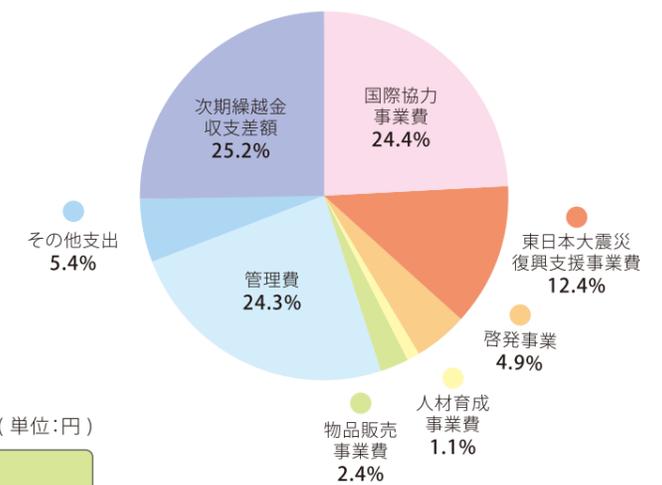
国際協力事業費明細 (単位:円)

アジア事業費	
地雷埋設地域村落開発プロジェクト(カンボジア)	1,667,410
地雷埋設地域小学校建設プロジェクト(カンボジア)	5,872,196
地雷埋設地域伝統音楽復興&継承プロジェクト(カンボジア)	906,845
スタディーツアー諸経費(カンボジア)	94,177
その他事業(カンボジア)	40,665
日本国内業務費	4,294,902
合計	12,876,195
アフリカ事業費	
元子ども兵社会復帰支援プロジェクト(ウガンダ)	6,553,547
BHN支援活動費	1,988,631
能力向上支援活動費	2,443,408
心理社会支援活動費	1,044,269
収入向上支援活動費	530,400
マイクロクレジット原資	546,839
不法小型武器問題啓発プロジェクト(ウガンダ)	119,620
視察・スタディーツアー諸経費(ウガンダ)	964,649
元子ども兵及び紛争被害者エンパワメントプロジェクト(コンゴ民)	5,240,970
日本国内業務費	4,502,086
合計	17,380,872

収入内訳



支出内訳



ともつな基金(東日本大震災復興支援事業)	
ともつな基金緊急支援活動費・調整機関の能力強化のための活動費	4,584,997
大槌刺し子復興プロジェクト	10,778,387
合計	15,363,384

# Terra Renaissance Manifesto 2010-2012

世界を変える3つの提言 30の行動目標.

## 1. 10,000人の紛争で傷ついた人々を支援します (支援)

- (1) ウガンダ共和国北部で、元子ども兵160名の社会復帰を実現します
- (2) ウガンダ共和国北部で、元子ども兵の住む地域の貧しい人々200名の収入向上を促進することで、元子ども兵と地域社会との和解を促します
- (3) コンゴ民主共和国で、元子ども兵と紛争の影響を受ける人々2,000名のBHN(衣食住など、人間としての基本的なニーズ)を満たし、紛争後に向けての生活を再建します
- (4) カンボジアで、地雷除去支援を行い、1,000世帯の安全を確保します
- (5) カンボジアで、地雷埋設地域300世帯の自立を促進します
- (6) ラオスで、不発弾処理支援を行い、1,000世帯の安全を確保します
- (7) カンボジア、ラオスで、安全が確保された土地に学校を建設し、1,500名の子どもたちに教育の機会を提供します
- (8) カンボジア、ラオスで、地雷・不発弾回避教育のための教材を5,000部作成・配布します
- (9) 武器貿易条約成立に向け、国内外において積極的な啓発活動を行います
- (10) 活動地域において、不法な小型武器取引の規制を推進する啓発活動を実施します

## 2. 100,000人の「平和の担い手」を育成します (育成)

- (1) 各種教育機関よりインターンを200名受け入れ、平和の担い手を育成します
- (2) スタディツアーを通じて、100名の平和の担い手を育成します
- (3) 子ども兵、地雷などをテーマにした平和教育プログラムを開発し、各種教育機関に提供します
- (4) 平和教育プログラムを担える教職員を育成するためのセミナーを実施します
- (5) NPO/NGO に関心を持つ学生・若者に対して実践型セミナーを実施します
- (6) 全国各地に1,000名のボランティア登録者を募り、テラ・ルネッサンスを応援する地域リーダーを50名育成します
- (7) 各種学習会などを通じて、政治家を含めた政策策定者に、小型武器、子ども兵などの課題解決に向けた政策形成を働きかけます
- (8) ひとや地球に優しい企業の在り方を提示し、特に中小企業のCSR推進を応援します
- (9) 活動地域にて、対話による平和構築を目指し、各種セミナー、ワークショップを実施します
- (10) 活動地域事務所にて、スタッフの育成を行い、現地人による主体的な運営を目指します

## 3. 1,000,000人の平和に関心を持つ人を増やします (啓発)

- (1) 職員、インターン、ボランティアによる講演を、全国各地で500回実施し、50,000人に平和の大切さについて伝えます
- (2) 各種メディアを通して、テラ・ルネッサンスの活動、取り組み課題について積極的に広報します
- (3) 携帯電話サイト、動画サイトを作成し、より「わかりやすい」啓発に努めます
- (4) 支援実績を基に、子ども兵や地雷・クラスター爆弾、小型武器に関する小冊子・DVDなどを作成します
- (5) テラ・ルネッサンスの活動、取り組み課題について伝える写真展を100カ所で開催します
- (6) 気軽な国際協力的手段として、使用済みインクカートリッジ、書き損じハガキの回収拠点、募金箱設置個所を1,000カ所に増やします
- (7) CSR調達、ISO26000の普及にむけ、企業・団体に積極的な働きかけを行います
- (8) 日本国内で不法な小型武器取引規制を求めるキャンペーンを行います
- (9) ウェブサイト上での決済手段を導入し、より寄付のしやすい条件整備を進めます
- (10) 認定NPO 法人格を取得し、より寄付のしやすい条件整備を進めます

# マニフェスト進捗状況

## 1. 10,000人の紛争で傷ついた人々を支援します (支援)

ウガンダ共和国：(裨益対象人数：954名)

ウガンダ北部地域において、149名の元子ども兵(元少年兵59名：元少女兵90名)への社会復帰支援とともに、その家族(もしくは同居者)約700名に対して、BHN支援(衣食住を満たすための支援)を行うことができました。また、同地域で、紛争の影響を受けた貧困層住民105名への職業訓練、収入向上支援活動を行うことができました。

コンゴ民主共和国(裨益対象人数：約2,700名)

コンゴ東部南キブ州の12カ村において、600家族(約2,700名)に対して、①マラリア予防のための啓発活動及び蚊帳の配布(600家族全員)、②158名の孤児に対するインフォーマル教育(初等教育)、③元子ども兵171名及び性的暴力を受けた女性被害者382名に対して、自給食料を確保するための緊急支援、農業支援などの自立支援を行うことができました。

カンボジア王国(裨益対象人数：約7,310名)

地雷埋設地域の260世帯(1,400人)の自立支援を行うことができました。地雷埋設地域において、安全が確保された土地に2校の小学校を建設し、490名の子どもたちに教育の機会を提供しました。また、地雷埋設地域の小学校に不足していた机、椅子を提供し、120名の子どもたちに教育の機会を提供しました。地雷・不発弾回避教育のための教材を5,300部作成し、5,000名へ配布しました。なお、2012年3月にASEAN違法小型武器・不発弾に関するワークショップへ参加しました。

ラオス人民民主共和国(裨益対象人数：約300名)

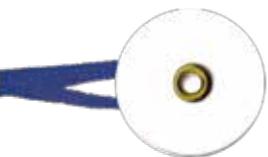
クラスター爆弾の除去が完了し、安全が確保された土地に中学校を建設し、300名の子どもたちに教育の機会を提供しました。

## 2. 100,000人の「平和の担い手」を育成します (育成)

学生の街「京都」という地域性を活かして、様々な機関と連携しながら、積極的にインターン・ボランティアを受け入れてきました。ただ、京都以外での、または、学生層以外の対象への「平和の担い手」を育成するための事業を開始することができておりません。その点は、テラ・ルネッサンスの課題として、引き続き、マニフェスト達成のために事業を開発・運営に努めてまいります。

## 3. 1,000,000人の平和に関心を持つ人を増やします (啓発)

鬼丸昌也以外に講演可能な職員を増やし、より幅広い層への講演活動を展開してきました。また、facebookやtwitterなど、ソーシャルネットワークの積極的運用を開始したり、ウェブサイト適宜、修正したり、動画専用のウェブページを作成するなど、テラ・ルネッサンスが取り組んでいる課題や、活動を分かりやすく伝えるためのツールを整備し続けています。今後は、より多くの方に活動への参加を通じて、「平和」に関心を持ってもらえるように、様々な参加プログラムの整備に取り組んでまいります。



## 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス

〒600-8191

京都府京都市下京区五条高倉角塚町21番地  
jimukinoueda bldg. 403号室

TEL/FAX : 075-741-8786

E-mail : contact@terra-r.jp

[www.terra-r.jp](http://www.terra-r.jp)

 terra.ngo  @terra\_ngo

## 制作後記 小田 起世和

被爆三世の私は「デザインので世界を平和にしたい」という夢があります。その途中で、テラ・ルネッサンスの鬼丸さんと小川さんに出逢い、今回の報告書制作に関わらせていただくことになりました。全ての生命が安心して生活できる社会の実現を目指すために、デザインは、そっと寄り添っていただけたらと思います。

---

### プロフィール

長崎県出身。高校在学中に核兵器廃絶を目指して活動する「高校生一人署名活動」に参加。崇城大学(熊本県)でデザインを学ぶ。東京の会社勤務を経て、現在は京都でデザイナーとして活動。